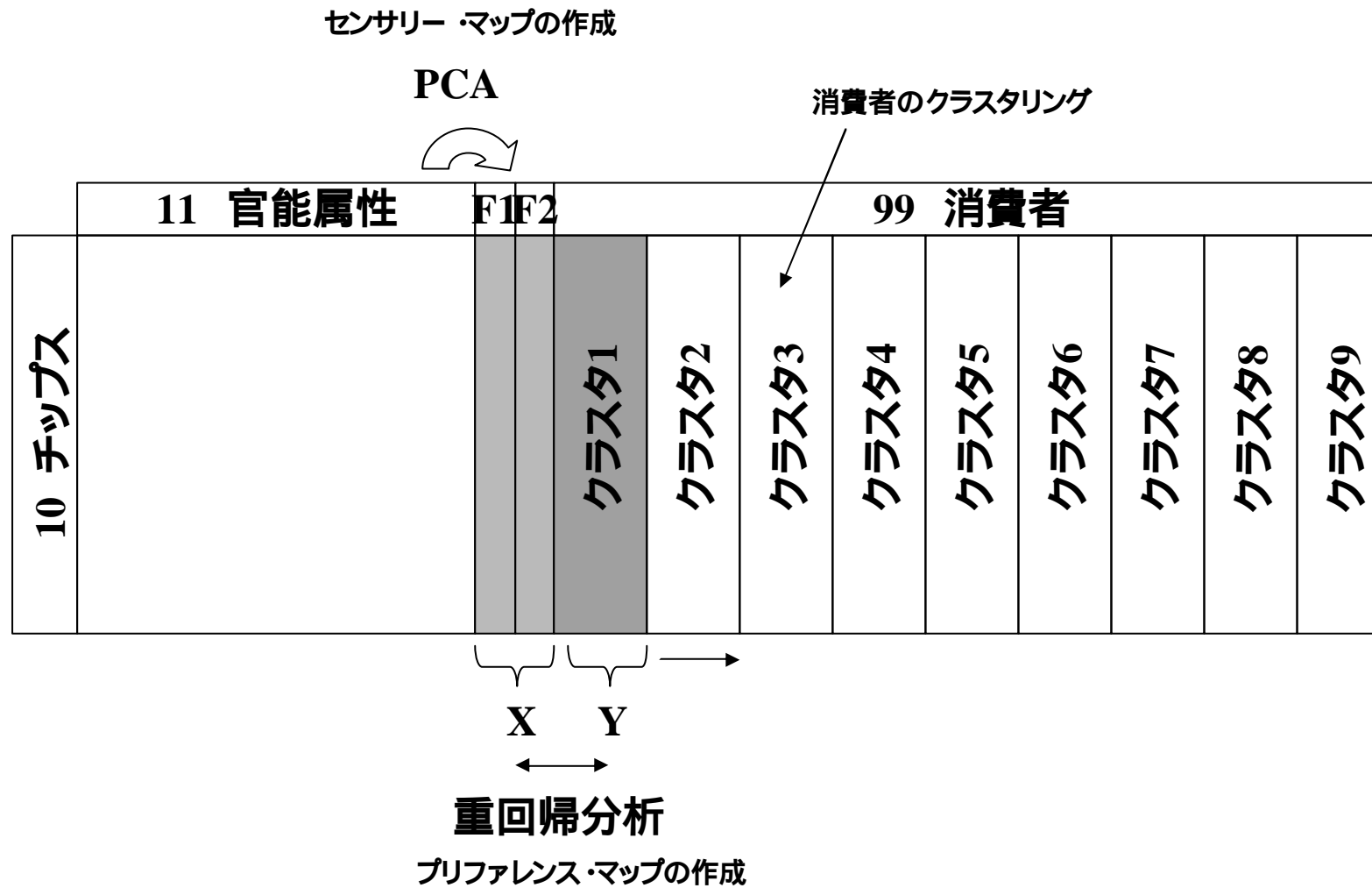
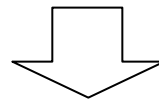


XLSTATチュートリアルでのPREFMAP法 分析手順のあらまし



主成分平面へのマッピングの限界

1. 第3主成分以降の情報をすべて切り捨てている。
2. 官能評価属性が多いとバイプロットで表示しきれない。
3. 多数の消費者を視覚的にプロットできない場合、クラスタリングを用いて、大きな情報損失を伴う



自己組織化マップによる可視化の改良

1. すべての次元を考慮して2次元へのマッピングができる。
2. 属性が多くても属性間の関係を視覚的に比較できる。
3. すべての消費者をマッピングした上で、マップ上の位置関係(トポロジー)を考慮して、より自然なクラスタリングが行える。
4. PREFMAP法のすべての結果も可視化できる。
5. 連想機能によって、観察されていない消費者ごとの官能評価まで推定できる。

詳細は、マインドウェア総研までお問い合わせください。

